

製品名: Cdk9 (リン酸化 Thr186) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04437

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	CDK9 CDK9; CDC2L4; TAK; Cyclin-dependent kinase 9; C-2K; Cell division cycle 2-like protein kinase
別名	4; Cell division protein kinase 9; Serine/threonine-protein kinase PITALRE; Tat-associated kinase complex catalytic subunit
遺伝子 ID	1025.0
SwissProt ID	P50750
免疫原	抗血清は、Thr186 のリン酸化部位周辺のヒト CDK9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 152-201

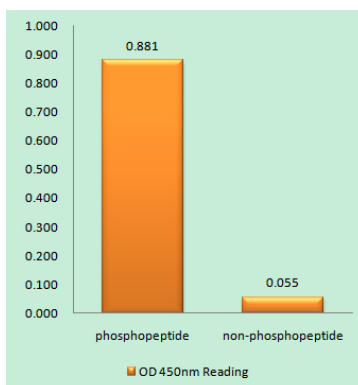
背景

サイクリン依存性キナーゼ9 (CDK9) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、サイクリン依存性タンパク質キナーゼ (CDK) ファミリーのメンバーです。CDK ファミリーのメンバーは、S. cerevisiae cdc28 および S. pombe cdc2 の遺伝子産物と非常に類似しており、重要な細胞周期制御因子として知られています。このキナーゼは、RNA ポリメラーゼ II による転写の伸長因子であり、RNA ポリメラーゼ II の最大サブユニットの C 末端ドメインをリン酸化することによって機能する、多タンパク質複合体 TAK/P-TEFb の構成要素であることがわかりました。このタンパク質は、その制御サブユニットであるサイクリン T またはサイクリン K と複合体を形成し、制御されます。HIV-1 Tat タンパク質はこのタンパク質およびサイクリン T と相互作用することが判明しており、このタンパク質が AIDS に関与している可能性が示唆されました。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: ATP + [DNA 指向性 RNA ポリメラーゼ] = ADP + [DNA 指向性 RNA ポリメラーゼ]リン酸。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リンタンパク質。機能: サイクリン依存性キナーゼペア (CDK9/サイクリン-T) 複合体のメンバー。正の転写伸長因子 b (P-TEFb) と呼ばれ、RNA ポリメラーゼ II の大サブユニット (RNAP II)、SUPT5H、および RDBP の CTD (C 末端ドメイン) をリン酸化することにより、不完全伸長から産生伸長への移行を促進します。CDK9/サイクリン-K 複合体は、RNAP II の CTD に対するキナーゼ活性も有し、in vitro で P-TEFb の代替として使用できます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CDC2/CDKX サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: CCNT1/cyclin-T1 と会合して P-TEFb を形成する。P-TEFb は AFF4/AF5Q31 と複合体を形成する。また、CCNK/cyclin-K とも会合する。HTATSF1/Tat-SF1、P-TEFb 複合体、RNA ポリメラーゼ II、SUPT5H、NCL/ヌクレオリンを少なくとも含む複合体の構成要素。7SK snRNP 複合体の構成要素であり、少なくとも P-TEFb (CDK9 と CCNT1/cyclin-T1 を構成)、HEXIM1、HEXIM2、BCDIN3、SART3 タンパク質、7SK および U6 snRNA を含む。組織特異性: 普遍的。

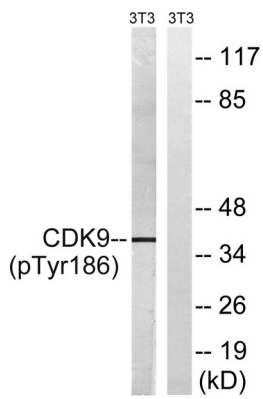
研究分野

細胞の成長

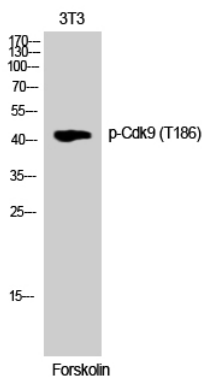
画像データ



CDK9 (リン酸化 Thr186) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



フォルスコリン 40nM 30 μ L 処理した NIH/3T3 細胞ライセートの CDK9 (リン酸化 Thr186) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Cdk9 (T186) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析。